

第3回徳島東部地域定住自立圏推進協議会 会議録

日 時：平成23年9月27日（火）17時～18時

場 所：ホテルクレメント徳島 3階 金扇

1 開 会

（司会）

第3回徳島東部地域定住自立圏推進協議会を開催いたします。

2 会長挨拶

（会長：徳島市長）

本日は、公務ご多忙にもかかわらず、第3回徳島東部地域定住自立圏推進協議会にご出席を賜り、誠にありがとうございます。

定住自立圏構想につきましては、昨年9月に本市が「中心市宣言」を行い、本年3月30日には、皆さまに「合同調印式」にご出席をいただきまして「徳島東部地域定住自立圏形成協定」を締結いたしました。

その後、圏域の将来像や協定に基づき推進する具体的取組などを示す共生ビジョンについて、圏域の住民の皆さまを対象にしたパブリックコメントや共生ビジョン懇談会での検討を経まして、このたび「共生ビジョン最終案」として取りまとめることができました。

その間、皆さまには、定住自立圏構想の実現に向け、ご尽力を賜りまして、心よりお礼申しあげます。ありがとうございました。

本日は、この手続きの最終段階となります「徳島東部地域定住自立圏共生ビジョン(最終案)」をご説明し、ご確認いただき、確定したいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申しあげます。

3 報告事項

これまでの経過について

（会長：徳島市長）

まず、「3 報告事項」の「これまでの経過について」を事務局よりご説明いたします。

（事務局）

- 資料1 共生ビジョン策定に至るまでの経過について説明 -

（会長：徳島市長）

ただ今の説明に関して、ご質問等がございましたら、お願いします。

(各市町村長)

(質問なし)

4 協議事項

徳島東部地域定住自立圏共生ビジョン(最終案)について

(会長：徳島市長)

続きまして、「4 協議事項」に入りたいと思います。

「徳島東部地域定住自立圏共生ビジョン(最終案)」について、事務局からご説明いたします。

(事務局)

- 資料2 「徳島東部地域定住自立圏共生ビジョン最終案【概要版】
- 資料3 「徳島東部地域定住自立圏共生ビジョン(最終案) について説明 -

(会長：徳島市長)

事務局から共生ビジョン最終案につきまして、説明がございました。

この共生ビジョン最終案は、策定にあたっての必要な手続きを経て、各市町村の9月議会におきましてご説明いただいたものでございます。

皆さまには、この最終案の内容をもちまして、共生ビジョン策定ということで、よろしいでしょうか。

(各市町村長)

(異議なし)

(会長：徳島市長)

それでは、「徳島東部地域定住自立圏共生ビジョン」は、ただ今をもちまして、策定とさせていただきます。ありがとうございました。

今後の推進スケジュールについて

(会長：徳島市長)

続きまして、協議事項の「今後の推進スケジュール」について、事務局からご説明いたします。

(事務局)

- 資料4 共生ビジョン推進スケジュール(案)について説明 -

（会長：徳島市長）

推進スケジュールについて、事務局からご説明いたしました。
皆さん、何かご意見等はございますか。

（松茂町長）

1つの連携事項について変更する場合は、関係する市町村の議会と徳島市の議会の議決だけでいいのか、それとも12市町村全ての議会に諮らなければいけないのですか。

（事務局）

新たに連携する取組を増やす場合は、徳島市を中心とした形で複数の各市町村の参加意向を伺いまして、複数の市町村の参加のもとに同時に手続きを行って行くこととなります。

また、協定の政策分野を変更するなど、形成協定の内容を変更する必要がある場合は、徳島市と該当する市町村の議会での議決が必要となります。

（会長：徳島市長）

よろしいですか。それでは、このスケジュールに基づき、推進してまいりたいと考えておりますので、よろしく願い申し上げます。

圏域住民等への広報について

（会長：徳島市長）

続きまして、協議事項の「圏域住民等への広報について」事務局からご説明いたします。

（事務局）

- 資料5 広報計画（案）の説明
- 参 考 徳島東部地域定住自立圏PRリーフレットについて説明 -

（会長：徳島市長）

申すまでもなく、この事業の成果は、12市町村の住民の皆さんに、この定住自立圏構想に関心を持っていただくことから始まると考えております。

そのため、きめ細やかな広報活動を通じまして、この取組の意義や圏域でまとまる有効性について住民の皆さんにいかに理解していただくかということが重要であります。

そして、これまでより便利になったと実感し、地域に活気が出てきたと肌で感じていただくような成果を生み出していくことが大切だろうと思います。

また、取組の成果についても、積極的に広報していかなければいけないと思っております。

ます。

ただ今、事務局から説明いたしました広報計画（案）につきまして、ご意見等ございましたらお願いいたします。

（上板町長）

このパンフレットは全戸配布ですか。

（会長：徳島市長）

全戸配布ではありません。

（事務局）

印刷部数は1万部でございますので、ご希望に沿える形で各市町村に配布したいと考えております。

配布場所といたしましては、各市町村の庁舎や公共施設などで配布していただくということを考えております。

（会長：徳島市長）

もっと増刷したほうがよろしいですか。

（上板町長）

私がおもうには、住民は徳島東部地域定住自立圏を知らないと思います。

せっかく、このようないいものができたのであれば、「定住自立圏ができましたよ」ということを広報や回覧板等で住民全体に知らせることは、意味があるのではないかと思います。「お問い合わせは役場へどうぞ」というコメントを入れて配るということを、最初に行うのがいいのではないかと思います。

（事務局）

全戸配布については配布方法の検討なども必要ですので、できるだけ多くの方に配布できるような形で今後検討していきたいと考えております。

資料5の広報計画（案）の年間広報計画の中でお示ししておりますように、PR紙を年2回作成・配布としており、簡易な形にすることで、発行回数を増やすことも考えております。

（会長：徳島市長）

徳島市も「広報とくしま」という媒体を持っておりますので、それぞれの市町村の広報媒体におきまして、定住自立圏に取り組んでいますということをPRしていただくことも大事だと思います。紙面などの都合もあるかと思いますが、それもお願いしたいと考えております。

（上板町長）

広報紙に記事を出すにしても、このパンフレットが分かりやすいので、一から作るよりは、これを増刷していただければより簡単で割安かなと思います。

（事務局）

いろいろご意見をいただきまして、広報活動につきましては、担当者部会レベルで打ち合わせをしたいと考えております。

（松茂町長）

町民には、「どういうことができるのか」ということをしっかりと認識してもらわないといけないし、そのための広報ですからね。

（会長：徳島市長）

事務局からもありましたように、この案が最終確定ではなく、これから広報のやり方についても担当者レベルで、よりよい広報ができるようにご協力いただきたいと思います。

それでは、皆さんにご協力いただきまして、圏域全体で広報活動を計画的に推進していきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

5 意見交換

（会長：徳島市長）

以上で協議事項は全て終了いたしましたけれども、これからは、「定住自立圏構想」全般についての「意見交換」の場にしたいと思います。

今後の取組への意気込みや連携する取組、議会での反応など、何からでも結構ですので、ご意見がありましたらお願いしたいと思います。

（板野町長）

今、気になっていることが災害の問題です。

平成19年に、この東部地域で協定書を締結しているということを聞いておりますが、その後、何も進展がないということではないかと思っております。今後は、この12市町村間での相互支援も必要なのではないかと思っております。また、それぞれの市町村で自主防災組織があると思っております。個別に研修はしていますが、やはり連携的な研修ができておりません。

これらは、これからすぐに取り組めるというものではありませんけれども、できましたら、定住自立圏構想の中に追加することを提案させていただきたいと思っております。

例えば、板野町には、ここの市町村が行きますという具体的なことも必要なのではな

かろうかと思っております。南海・東南海地震が30年以内に60%の確率で起こるといふことで、沿岸部が津波に襲われた場合は、山手側の市町村が沿岸部の市町村を支援できる体制づくりが一番必要なのではないかと思います。また、先を見据えての全体的な訓練もやっていけばどうかと常々考えていました。

私どもの職員を福島に派遣したときに、福島県内でそのような支援体制があったと報告を受け、これからはそういった支援体制も必要なのではないかと考えましたので、是非とも検討いただいたらと考えております。

(会長：徳島市長)

板野町長からそういった意見がございましたけれども、この定住自立圏構想に取り組む以前から、徳島東部地域市町村長懇話会では、災害の分野に関してはいろいろ努力していくということでありましたので、この定住自立圏の政策課題としてはどうでしょうか。

(事務局)

形成協定の変更については議会の議決を要しますので、先ほどのスケジュールのご説明の際に申しあげましたように、今後検討することになるかと思っておりますけれども、懇話会の防災部会で連携事項として協議させていただいて協定したという経緯がございますので、その中で、板野町長がおっしゃった「対口支援」について取り入れていくかどうかの議論をしていけばいいのではないかと考えております。

(板野町長)

私が提案させていただいたのは、定住自立圏であれば特別交付税がありますので、財源が全くないということはありません。そういったことも含めて検討ができないかなと思います。これは、それぞれの首長さんの一番悩んでいることではないのかと思いますので、平成19年に東部地域で協定を結んでいるのであれば、そのことを広報もして、また、勉強会も必要ではないかと思っております。

(事務局)

おっしゃるとおり、その当時は東日本大震災もなかった状況でございますので、新たな課題も出てきていると思います。東部懇話会で新たな課題に対して十分議論し、その結果、この徳島東部地域定住自立圏共生ビジョンの中に入れていくということで取り組む可能性もございます。

いずれにしましても、定住自立圏で取り組む場合には、来年度9月議会に協定変更について諮った上でということになりますので、まずは、市町村長懇話会で新たな課題について十分詰めていけたらと考えております。

(小松島市長)

特に財政状況が厳しい小松島市にとりましては、限られた財源の中でやるべきこと、選択と集中ということで以前から取り組んできたわけでございます。特にソフト的な事業がなかなかできず、財政的にも苦勞をしてきたわけですけれども、今回は、徳島市さんが中心市ということで、定住自立圏を形成し、私どもも、この平成23年度の9月補正予算に1,000万円程でありますけれども、さまざまな広域的施策について取り上げさせていただきました。そのことを大変うれしく思っていますし、今後5年間、徳島市を中心として各市町村の皆さん方にもご理解、ご支援やご協力をいただいて、交流を深めながら進めて行かなければならないという思いでございます。

本市だけでは困難なこともございますので、特別交付税措置をしていただいて、観光、地産地消のPR、鳥獣害の防止などについて、皆さんと一緒に取り組むことは大変有効な手段ですので、喜んでおる状況でございます。

今後とも、皆さま方のお知恵とお力をいただいて、一所懸命取り組んでまいりたいと考えているところでございます。

(勝浦町長)

この定住自立圏共生ビジョンが約1年近くの時間をかけて、まとまりました。勝浦町につきましても、平成23年度からまちづくり総合計画を策定し、スタートしております。課題もかなりこのビジョンに含まれております。特に、中心市であります徳島市に大いにリーダーシップを発揮していただき、地域間の交流を図るさまざまな事柄の中で、勝浦町につきましても活性化を図って行きたいという強い思いがございました。

勝浦町につきましても14項目の連携に取り組めますけれども、1つだけと言われますと、やはり道路の関係です。勝浦町は、県道徳島上那賀線がメインの道でございますので、これの2車線化に取り組んでおります。また、徳島市に隣接するところで2車線化が図られていないところもございますので、今後の取り組みの中でより連携を深め、道路の拡幅を図って、多くの方々に勝浦町に定住していただく、また、観光面でも活性化に向けて取り組んでまいりたいという強い思いもございまして、これから大いに期待しているところでございますので、どうぞよろしくお願いを申し上げます。

(上勝町長)

徳島市さんには大変お世話になり、ありがとうございました。

実は、8月28日に正木トンネルができ、一番険しいカーブのところは2車線になりました。勝浦町長がおっしゃったように一部一車線の部分がありますけれども、ほぼ徳島市から2車線化となり、非常に近くなりました。全国棚田サミットで県内外から500名近くの方が来られまして、徳島市に泊まって、また上勝町へいらっしゃるということだったので、道路が良くなったので非常にありがたかったです。知事からも棚田サミットに間に合ってよかったなという話がこの前ありました。

すでに徳島市さんがいろいろやっていますが、今回、特に将来的に圏域のマネジメント能力の強化に関する政策分野で、おそらく金額は少ないと思うんですけれ

ども、市町村の職員の人材の育成が重要になるのではないかと考えております。

私たち上勝はへき地で職員も少ないので、この定住自立圏構想は徳島市が中心になっていただき、非常にありがたいと考えております。勝浦の町村会なども実質的に徳島市でやっているものですから、そういう面では既に中心市としての役割を果たしていただいているということで、大変ありがたく思っています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

(佐那河内村長)

この度の定住自立圏の推進にあたりましては、徳島市さんに多大なお骨折りをいただきまして、本日こうして最終案を確認することができましたことを深くお礼申しあげます。

今さら申しあげるまでもなく、佐那河内村は徳島市に他の分野でも過去からお世話になっておりまして、農協は徳島市農協であったり、教育関係は徳島市と名東郡で行っていることもございますので、こういったことを今まで以上に連携を深めてやっていきたいと考えております。

特に佐那河内村は、人口2千5、6百人と非常に小さいですけれども持続可能な農村としてこれからもやっていくためにどのようなことが必要かということを知恵を出し合いながらやっていきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

また、小さな自治体が自己完結していくことの難しさを痛感いたしております。広域でできることは広域で力を合わせて解決していきたいと考えております。そのためには、それぞれの自治体ができるテーマについてはしっかりとした責任を果たして行くということが必要なのではないかと考えております。佐那河内村といたしましても、小さな自治体でありますので、できることについてはその責任をしっかりと負って行きたいと考えております。

特に、上勝町長さんからお話がありましたが、圏域マネジメント能力の強化に係る政策分野の中で、圏域内の市町村の行政運営機能の強化については、連携市町村が全市町村になっており、今後、自治体では、いろいろな課題に対して、その時、その時に方向性を出していく際に、特に佐那河内村のような小さい自治体になりますと、情報が不足したり、あるいは問題に対する解決能力が少ないということがありますので、自治体職員の人材育成と合わせまして、是非徳島市さんにお骨折りをいただいて、今後とも行政課題への対応力の強化を図っていただければと思いますので、よろしくお願いしたいと思います。

(石井町長)

徳島東部市町村長懇話会に始まり、定住自立圏も共生ビジョンの策定など、会長の徳島市にはいろいろとお世話になっております。

板野町長からのご発言の中でもありましたけれども、懇話会の中で災害協定は結んでいます。定住自立圏ではそういうものはありませんね。

例えば、石井町が大災害のときに危惧する問題というのは、町民の約半数の方が徳島市に通勤・通学で出ておられていることです。そうすると、石井町では避難場所について町民への周知もしておりますが、徳島市に居るときに地震が起きたらどこに避難場所があるか分かりません。このことについては県にも要望を出してありますが、例えば徳島の津田に居た、あるいは病院に居た、その時に避難場所がどこで、どこに行けば備蓄があるなどの情報を共有することが必要ではないかと思っております。

石井町では、他にも、例えば水道や火葬場に始まりまして、ゴミの問題についてもこれからお世話になる場合もありますし、徳島市と石井町との関係、あるいは広域での関係というのを分けて推進していく必要があるのではなかろうかと思っております。

それともう一つは、最近、国の政策が変更される都度ソフトウェアの作成が必要です。国会でも一時問題になっておりましたが、ほぼ業者の言い値ですね。ソフトはほとんどの市町村で共通するものだと思いますので、定住自立圏の取組みで一緒になってソフトウェアを作成していただいて、少しでも安くなればいいのではないかと思います。

これからも、いろいろな政策について、単独ではなく広域でする場合が多々あるだろうと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

(神山町長)

特に徳島市さんには、大変なお骨折りをいただきましてありがとうございました。今後とも、よろしくお願いたします。

皆さんおっしゃいましたけれども、今の時代は財政難で、フルセットというのは我々のような小さな町では不可能な時代です。そういった中で、東部広域でこういった試みをしていただくということは、非常に有効な手段であろうと思っております。

ここに挙げられております項目というのは、それぞれやっていかなければならないものばかりかと思えます。これをいかに具現化、実効性のあるものにしていけるかということが、東部広域を実際に元気にしていくための最大の課題だと思います。

今後、回を重ねることによっていろいろな問題が出てくるかと思いますが、知恵を絞りながら前へ進めて行くということが必要だと思っておりますので、よろしくお願いたします。

(松茂町長)

徳島東部地域定住自立圏共生ビジョンという本当に素晴らしい計画ができたわけですが、市町村だけで決められるものと、やはり市町村の住民の皆さんにしっかりと活動してもらわないといけないものがありますので、この取組みが住民の皆さんに定着をするということが我々の責任ではないかと思えます。その上で、市町村の住民の方には、この定住自立圏の中で素晴らしい活動をしていただきたいと思っております。

そのためにも、先ほどの広報をするということは大きな意義があると思えます。それぞれの市町村民がこれを知らなければいけないと思えますので、そういうことをしっかりとやっていくという我々の責任を果たしたいと思えますので、よろしくお願したい

と思います。

(北島町長)

この度は、いろいろとお骨折りをいただきましてありがとうございます。

12市町村が力を合わせて、これをやっていかないといけないということは間違いのないことだと思いますし、先ほどの災害の関係の他にも、広域でいろいろとやっていくべきことはあると思いますので、これから先の懇話会で、一つひとつ解決していかねばいけないだろうと思います。

特に、ゴミの問題は切羽詰まっていると言いますか、厳しい状況の中で是非とも転換を図っていただければありがたいと思っております。懇話会で取り上げるのか、また別なところでやっていくのか、協議が必要だろうと思っておりますけれども、一つご協力をいただければと思っております。

こうした新しい取組みの中で、我々ができる範囲は十分にご協力をさせていただきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

(藍住町長)

定住自立圏について、本町は今年の3月議会で議決をいただきましたが、その時に議員から、定住自立圏に関する一般質問や、定住自立圏構想とはどういったものなのかという質問が当然あるであろうと思っておりましたが、3月議会、6月議会、そして9月議会も終わりましたけれども、本町だけかもしれませんが、一切ございませんでした。それだけ、議会をはじめとして住民の方にも、まだまだ周知がされていないと思います。

これから事業がスタートしていこうとしていますので、まずは住民の方に対して、「定住自立圏ができたよ、こんなことをやるよ、こんな事業があるよ」という周知を早急にしなければならぬというのが課題ではなかろうかと思っております。

そんな中で、このパンフレットの最後のページに各市町村の一番主張したいものが載っていると思います。今後、それぞれの市町村のお祭りやイベントの観光用ポスターなどを作った際に、12市町村間で配布し、役場の一番わかりやすいところに掲示するとか、あるいは町の広報で紹介するとか、各市町村が一番力を入れている事業や観光を12市町村で1つになって周知をしていくということをやってもいいのではないかと思います。

まずは、12市町村の中でご案内をして、この中の住民のお一人でも観光に参加していただくような周知を図っていくことから始めれば、定住自立圏の存在を周知することにつながっていくと思いますので、そのような機会があればできるかぎり各市町村の取組みを紹介すればよいのではないかと思います。

(板野町長)

先ほどは徳島市さんへの感謝の気持ちを忘れておりました。ありがとうございました。事務方につきましては、これだけの資料を作成することは並大抵の努力ではなかったか

と思います。本当にありがとうございました。

皆さんおっしゃってこられましたけれども、広報が一番大事ではなからうかと思っております。子どもについては議会に対しては、説明しておりますけれども、住民の方にはまだできておりません。やはり、定住自立圏構想をやっておりますということをPRできるようなことを1つだけお願いをさせていただきたいと思います。

先ほど申しましたこともご検討をいただけたらと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいいたします。

(上板町長)

会長を除いて11番目ということで、他の首長さんにほとんどのことはおっしゃっていただきましたので言うことはあまりございませんが、「なぜこういったものを作ったのか」という、これが一番大切だろうと思います。将来の人口の流失とか減少を食い止めなければならないという一つの危機感から、それを住民に周知し、そして住民に対しても危機感を与えるということ、また、定住自立圏に取り組むことでメリットがあるということを喚起することが大事ではないかと思っております。

一点だけ、これは手前味噌ではございますが私が取り組んでいることを報告させていただきたいと思っております。農協さんがいいものを作るということをよく言っております。ですが、いくらいいものを作っても消費者に受けなければ何もなりません。食べておいしいものを作ることがやはり必要ではないかとよく言うわけですが、徳島の東部地域は非常に肥沃な土地で、農業が盛んな地域であります。その関係で特産品も相当ございますから、食べておいしいもの、消費者がおいしかったというものを作り、安全で安心であるということを行うわけでありまして、そういうようなことをキャッチフレーズにしてPRを行い、メディアを上手に利用して行くということ、この産業振興の取組の中で、進めてもらえればと思っております。

また、ステップ1ができて、これからステップ2に進んで行くわけでございますので、徳島市さんには今まで非常にご苦勞をなさっておられますが、そういったところを十分考えていただき、お互いが相乗効果を保ちながらやっていかなければならないと思っておりますので、なお一層のご努力をよろしくお願いいいたします。

(会長：徳島市長)

ありがとうございました。最後に、私からも御礼申しあげたいと思っております。ほんとうに皆さまにご協力をいただきまして、今日、最終案をまとめることができました。心から感謝申しあげたいと思っております。

このパンフレットには、徳島東部圏域の将来像を「人をつくり・地域を興し・未来につなぐ みんなで暮らし続ける魅力ある共創交流圏」となっております。

先に開催したビジョン懇談会でも、委員さんから、地域を愛する住民のパワーの結集と強化が、今後の地域活性化のキーワードであるとの意見があったようでございます。

やはり、「地域づくりは人づくりから」と言われますように、市町村の職員の人材育

成ももちろんでございますけれども、キーパーソンと呼ばれる人を地域で発掘して行く、これも大きな成否を握っているように思います。

これからスタートということで、一つひとつ小さなことからでも成果を出して行って、本当によくなったということを12市町村の皆さんが共有できるようになれば、自ずと認知度が上がってくると思います。それにプラスして、広報活動の重要性もご指摘いただきましたように、皆さんのご協力をいただきながら進めていきたいと思っております。

課題もありますけれども、皆さんと一層の協力関係を築きながら観光や産業振興など、さまざまな連携を通じて、圏域住民の幸せな暮らしの実現につながるよう、皆さんとともに一步一步着実に進めていきたいと考えておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

以上で、本日予定の議事は、すべて終了いたしました。

それでは、これをもちまして「第3回徳島東部地域定住自立圏推進協議会」を閉会させていただきます。

本日は、お忙しい中、お集まりいただき、誠にありがとうございました。